

2022年度決算及び第16次中期経営計画説明会 主な質疑応答

※説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

<国際物流事業について>

Q 取扱数量の足元の状況と2023年度の見通しについて教えてほしい。

A (足元の状況:2023年度第1四半期)

2022年度第4四半期は、航空輸出・輸入で対前年同期比約20%減少しており、2023年度第1四半期についても、同様の減少傾向が継続する見通しである。

(2023年度の見通し)

上半期は対前年比で落ち込む見通しである。下半期は半導体の需要増加の影響で回復するものの、対前年比では落ち込む見通しである。

Q 熊本などでの新しい工場建設の影響について教えてほしい。

A 熊本に関しては台湾と熊本の荷動きが発生すると考えており、例えば福岡と熊本間を結ぶトラック網の構築や、現地倉庫でのクロスストックの取組みを進めたい。

※クロスストック:積み替えを中心とした拠点機能

<大型開発プロジェクトについて>

Q 2025年度数値目標のうち、現在開発している大型開発プロジェクトが占めるボリュームを教えてほしい。

A 大型開発プロジェクトある福ビル街区において、賃貸事業の内、賃料収入で2割程度の増収、EBITDAで2割弱の増益となる見込みである。

<インバウンド回復状況について>

Q 運輸業のゴールデンウィークの状況を教えてほしい。

A インバウンドのお客さまに人気の福岡・太宰府や大分・湯布院、別府では、コロナ前水準まで活気を呈しており、バスの増便も検討している。

Q ホテル事業の直近の状況を教えてほしい。

A 概ねコロナ前に近い水準まで回復している。特に西鉄グランドホテル、ソラリア西鉄ホテル福岡に関しては、インバウンドのお客さまの割合がコロナ前を上回っている。

<運賃改定について>

Q 今後の鉄道とバスの運賃改定をどのように考えているのか教えてほしい。

A 現状、定期外収入はコロナ前比較で、鉄道は9割、バスは8割程度であり、観光やインバウンド等による利用者の増加は期待できるものの、日常的なお客さまがコロナ前まで回復することは期待できない。

バスは大変厳しい状況。業界動向として、他社は国土交通省と様々な協議をはじめており、弊社も同様である。具体的な改定時期に関して公表は差し控えたい。

また、鉄道に関しては2023年3月に「鉄道駅バリアフリー料金制度」を導入し、1乗車あたり10円を頂いているが、これは施設のバリアフリー化のためのものである。

鉄道では現状黒字化の目途は見えているが、今後も安全のための投資の継続、また、要員確保や電気代等によるコスト増を考えると、中期的には運賃改定を検討する時期が来ると考えており、適切に判断していきたい。

<第16次中期経営計画の実現について>

Q 人的資源など経営リソースについて課題に感じていることを教えてほしい。

A 西鉄グループの強みとして、創業から115年で培ってきたモビリティサービスや沿線開発のノウハウがあるが、これまでの事業以外の新しいノウハウも必要な時代になっている。昨年度立ち上げた再生可能エネルギー電源開発事業など、そういった新しい事業領域における人財の確保が課題だと感じている。

積極的にアライアンス・協業を進め、その協業先からの人財確保や、中途採用等に注力していきたい。

以上